

サーキュラーエコノミー

(循環経済)という概念は、近年急激に社会的認知度が高まっている。一方、循環経済が従来の資本主義経済に代わる新しい価値を生み出すのか、資本主義経済がもたらした「経済成長のエンジン」を循環経済が生み出すことで、真に持続可能な発展につなげることができるのか、批判的な意見も出されてきた。

従来の循環経済は、「3R」と呼ばれるリデュース(減量)、リユース(再利用)、リサイクルによって、資源開発と浪費の抑制を目指すものだった。一方、循

循環経済は資本主義経済を改革するか

うな仕組みが必要となる。その実現に向けた手法の一つがアップサイクルである。アップサイクルとは、廃棄物や不要品を単なるリサイクルではなく、より価値の高い製品へと再生することであり、資源の浪費を防ぎながら新たな価値を創出する点で特に有効である。

筆者は、循環経済におけるアップサイクルの重要性を体感できる機会として、2025年4月19日に名古屋市中で開催された「循環フェス名古屋」に参加した。このフェスは、リユースやリサイクルの文化を東海地域に広めることを目的とし、特に古着のアップサイクルに焦点を当てた企画が多数展開された。例えば、無料で古着を提供・回収す

生かしながら新たなデザインや用途を創出するため、資源の消費を抑えつつ付加価値を高めることができ

アップサイクルが生み出す新しい価値とは

環境経済が新たな持続可能な経済モデルとなりうるためには物質的循環を実現する中で付加価値を生み出すよ



愛知淑徳大学 環境・資源経済学 名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、博士(経済学)。1979年生まれ。

る「0円マーケット」では、参加者が不要になった衣類を持ち寄って他者に譲る一方、他者が持ち込んだ古着を一点持ち帰ることができ

アップサイクルの価値は、環境面にとどまらない。従来のリサイクルでは、素材を再加工する過程でエネルギーを消費し、場合によっては品質が低下することがある。しかし、アップサイクルでは、既存の素材を

わたなべ・さとし 環境・資源経済学。名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、博士(経済学)。1979年生まれ。